

## 2022 年 3 月期 中間決算報告

株式会社ソラシドエア(本社:宮崎県宮崎市、代表取締役社長:高橋 宏輔)は、本日 11 月 26 日(金)、2022年3月期中間決算を取りまとめました。詳細につきましては、別紙「2022 年 3 月期 中間決算短信」をご参照ください。

### 1. 2021 年 9 月中間期(2021 年 4 月 1 日 ~ 9 月 30 日)の業績

#### (1) 概況

当中間会計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大により緊急事態宣言が発出され、複数回延長されるなど影響が長期化し、サービス業を中心に厳しい状況が続きました。

航空業界においては、政府の緊急事態宣言による都道府県を跨ぐ移動の自粛などにより、旅客需要の大幅な減少が継続しました。緊急事態宣言解除以降、旅客需要は緩やかに回復に向かつてはいるものの、感染者数の動向に応じ影響を受けやすい状況が続いています。

当社においても旅客需要が大きく減少し、厳しい状況が続いております。このような状況下、引き続き公共交通機関としての使命である安定的な航空ネットワークとお客さまの利便性の維持を前提に、需要に応じた生産量の弾力的な運用を行い、変動費の適正化を図りました。また、固定費についても徹底した経費削減等の施策の取り組みを継続しました。

営業・サービス面では、株式会社AIRDOとの協業事業の一環として、北海道と九州沖縄の旅をより気軽に楽しんでいただける共同キャンペーンを行いました。また、「九州・沖縄の翼」として、地域社会および地域経済活性化への貢献を実現すべく、地元とともにつながりを創る新組織の設立や地元とともに新しい価値を創造する新規事業「空陸一貫 高速小口貨物輸送事業(ソラチョコ便)」をスタートさせるなど、厳しい環境下においても地元との連携を強化しました。その他、地球環境保全に配慮した取り組みとして、機内ドリンク用紙コップを「間伐材」へ変更し、付属のフタ・ストローはプラスチック素材から紙素材へ変更しました。これからも地球環境保全に向けた取り組みを図り、地球にやさしい・愛されるエアラインを目指してまいります。

#### (2) 業績状況

当中間会計期間における業績は、営業収入が 11,557 百万円(前年同期比 41.9%増)となりましたが、前々年同期比では△45.9%に留まりました。事業費は 13,996 百万円(同 3.9%増)、販売費及び一般管理費は 1,589 百万円(同 9.0%増)となり、この結果、営業利益は△4,027 百万円となりました。営業外収益 241 百万円及び営業外費用 90 百万円を加味した経常利益△3,877 百万円は前年同期に比べ 2,568 百万円改善しました。税引前中間純利益は△3,877 百万円、中間純利益は△1,734 百万円(前年同期比 3,731 百万円改善)となり、中間純損失を計上しました。

【業績状況】	2021年9月 中間期	2020年9月 中間期	対前年 増減	前年 同期比	〔参考〕 2019年9月 中間期
営業収入(百万円)	11,557	8,144	+3,413	+41.9%	21,378
営業費用(百万円)	15,585	14,924	+661	+4.4%	19,912
営業利益(百万円)	△4,027	△6,780	+2,752	—	1,465
営業利益率(%)	△34.8	△83.2	+48.4	—	6.8
経常利益(百万円)	△3,877	△6,445	+2,568	—	1,419
中間純利益(百万円)	△1,734	△5,466	+3,731	—	1,083

### (3) 財務状況

当中間会計期間末における総資産の残高は 39,203 百万円(前事業年度末 41,302 百万円)となり、前事業年度末に比べ 2,099 百万円減少しました。流動資産は、4,366 百万円減少し 12,788 百万円(同 17,154 百万円)となりました。固定資産は、26,415 百万円(同 24,148 百万円)となり 2,267 百万円増加しました。

負債の残高は 32,421 百万円(前事業年度末 35,550 百万円)となり、前事業年度末に比べ 3,129 百万円減少しました。流動負債は 2,079 百万円減少し 8,717 百万円(同 10,796 百万円)となりました。固定負債は 1,050 百万円減少し 23,704 百万円(同 24,754 百万円)となりました。

純資産の残高は前事業年度末に比べ 1,030 百万円増加し 6,782 百万円(前事業年度末 5,751 百万円)となりました。

【財務状況】	2021年9月 中間期	2021年3月期	増減
総資産(百万円)	39,203	41,302	△2,099
純資産(百万円)	6,782	5,751	+1,030
1株当たり純資産額(円)	20,045.64	27,059.80	△7,014.16
自己資本比率(%)	17.2	13.9	+3.3

※ 自己資本比率は小数点第2位以下を切り捨て

### (4) 運航実績・輸送実績

運航便数については、新型コロナウイルス感染症による運休・減便数は前中間会計期間より減少しました。また、当中間会計期間の定時出発率は本邦1位を達成しました。

【運航実績】	2021年9月 中間期	2020年9月 中間期	対前年 増減	2019年9月 中間期	対前々年 増減
定期運航便数(便)	12,438	8,202	+4,236	13,383	△945
欠航便数(便)	147	164	△17	232	△85
就航率(%)	98.8	98.0	+0.8	98.3	+0.5
定時出発率(%)	99.0	98.8	+0.2	89.5	+9.5

提供座席数は 1,423,761 席(前年同期比 76.3%増)となり、有償旅客数は 427,771 人(同 105%増)、有償座席利用率は 31.3%(前年同期 25.9%)となりました。

【輸送実績】 *コードシェア販売分を除く	2021年9月 中間期	2020年9月 中間期	対前年 増減(比)	2019年9月 中間期	対前々年 増減(比)
提供座席数 (席)	1,423,761	807,477	+616,284 (+76.3%)	1,381,861	+41,900 (+3.0%)
有償旅客数 (人)	427,771	208,634	+219,137 (+105%)	931,600	△503,829 (△54.1%)
提供座席キロ (千席・キロ)	1,552,939	838,907	+714,033	1,451,365	+101,575
有償旅客キロ (千人・キロ)	486,520	217,453	+269,066	978,984	△492,465
有償座席利用率 (%)	31.3	25.9	+5.4	67.5	△36.1

## 2. 2022年3月期の業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

新型コロナウイルス感染症の影響については、10月以降、緊急事態宣言およびまん延防止等重点措置の解除を受けて旅客需要は徐々に回復の兆しが見えつつあります。しかしながら、未だ新型コロナウイルス感染症の収束時期は見通せず、当社を取り巻く経営環境は不透明な状況が続いていることから、現時点では2022年3月期の業績見通しを公表できる状況にはございません。

今後も、需要に応じた弾力的な運航による運航変動費の抑制および固定費の削減に努めて業績に対する影響への緩和を図り、更なる安全・安心、快適な空の旅を提供し、九州・沖縄とともに復活を果たしてまいります。

以上

<参考資料>

(数値は全て%)

路線別輸送実績 *コードシェア販売分を除く		有償座席利用率 (前中間会計期間値)	提供座席数 前中間会計期間比	有償旅客数 前中間会計期間比
東京 (羽田)	一宮崎	22.3 (19.1)	+45.6	+69.8
	一熊本	30.1 (26.6)	+77.7	+101.1
	一長崎	24.0 (24.0)	+82.3	+82.3
	一鹿児島	42.3 (28.0)	+32.3	+100.4
	一大分	23.6 (20.4)	+68.4	+94.2
	一沖縄(那覇)	41.7 (45.3)	—	—
	小計	31.1 (23.9)	+82.5	+132.3
沖縄 (那覇)	一宮崎	20.5 (18.7)	+15.8	+27.2
	一鹿児島	24.3 (26.2)	+40.4	+30.5
	一神戸	43.4 (42.6)	+74.9	+78.1
	一名古屋(中部)	25.7 (25.9)	△6.2	△6.6
	一石垣	21.3 (41.9)	+418.3	+163.7
	一福岡	24.8 (23.7)	+0.9	+5.4
	小計	31.5 (31.7)	+74.9	+60.9
名古屋 (中部)	一鹿児島	30.9 (49.6)	△14.6	△46.8
	一宮崎	47.4 (27.9)	+1.5	+72.6
	小計	38.5 (40.5)	△7.2	△8.4
全路線合計		31.3 (25.9)	+76.3	+105.0